

## マングース捕獲用新規わな「A24 改良版 II」の有効性

### Effectiveness of improved A24 II to trap Mongoose

中川 雅允, 河内 紀浩 (八千代エンジニアリング株式会社),

新里 和野 (株式会社島嶼生物研究所)

Masanobu Nakagawa, Norihiro Kawauchi, Kazuno Shinzato

沖縄島北部地域では、マングース対策事業によりマングースの生息密度が低下する一方、従来の筒わなやカゴわなでは捕獲が難しい個体が確認されはじめ、新規捕獲手法の開発が急務となっている。そこで、構造が全く異なる新規わな「A24 改良版 II」による捕獲試験を行った。

A24 は、ニュージーランドでオコジョなどの外来種駆除用に開発されたわなで、樹の幹に取付け連続 24 回の捕殺が可能という特徴をもつ。これまでの野外試験の結果から、マングース用に殺傷能力を強化した A24 改良版 II と、幹ではなく地面に設置するスタンドが試作され、本試験はこれら試作品 10 台を用い、マングースが高密度に生息する沖縄県東村慶佐次において行った。期間は 2017 年 2 月の約 10 日間で、わな作動状況は自動撮影カメラの動画で記録した。

試験の結果、マングースのわな訪問回数 81 回、わな作動回数 5 回（うち 1 回空打ち）で、わな作動率 6.2%となった。大型の成獣オス（887g）が捕獲された一方で、空打ちやわなを度々警戒する個体が確認されたことから、今後もさらなる改良と効果の検証を行う予定である。

なお、本試験は平成 28 年度沖縄県マングース対策事業において実施された。